



たかつか しゅういち  
高塚 秀一 さん (28)

神奈川県川崎市出身。高校1年生から陸上競技を始め、法政大学時代は箱根駅伝出場を目指す。3年前に妻の出身地である本町にカイロプラクティック院を開院。県下一周駅伝の選手としても4度の区間賞を獲得。奥さんと3歳、1歳の子どもの4人暮らし。



## カイロプラクティック × 高塚 秀一

▼ 関東から移住し、宮之城屋地区で「#インサイドホープカイロプラクティック」を営む高塚さん。骨盤や背骨のゆがみを整え、治療力を高めるカイロプラクティックを施術します。「最初は不安でしたが、今ではさつま町に来て良かったと思います」と振り返ります。きっかけは、東京の専門学校で知り合った妻・麻由香さんとの出会い。「妻の実家はさつま町で整体をしていました。亡くなった父の跡を継ぐために入学した妻と結婚し、さつま町で開院しました。この建物も妻の父が使用していたものです」と話します。

▼ 高校から陸上競技を始めた高塚さんは、大学時には箱根駅伝を目指すほどに。しかし、故障が多く出場は叶いませんでした。「選手時代に一番治療の効果を実感できたのがカイロプラクティック。社会学を専攻していたのですが、3年生のときに卒業後はこの道に進もうと決めました」と話す高塚さん。「自分自身がケガが多かったからこそ、お客様の気持ちに重ねることができると思っています」と続けます。

▼ 大学卒業以来、競技から離れた高塚さんですが、本町に来て再び駅伝の世界に。「開院した日に集落のソフトボール大会があり、あいさつしようと打ち上げに参加しました。



施術に使う体温計。微妙な体温の違いで神経の状態を診ます。

昨年の県下一周駅伝。本町を走る高塚さん。

そこで隣になった方から県下一周駅伝の話を知りました。高校・大学とケガが多く、やりきった気持ちは無いままだったんですが、その話を聞いたときに『また陸上をやる』と思いました。本当に運命だと感じているんですが、開院した日と県下一周駅伝を目指し始めた日が同じ日なんですすよね」と話します。

▼ 「駅伝の魅力は人との繋がりと話す高塚さんの思い出は、県下一周駅伝で本町を走ったこと。「来て間もない私に、治道から名前を呼んで応援してくれたことは本当にうれしく力になりました」と笑顔を見せません。「来院してくださる方に結果を出したい」と話す高塚さんは、優しい笑顔に熱い想いを秘めています。